

固形シャンプー処方拡充

テクノビューティ
ーサプライ社長 遠藤 真人



①当社は9月期決算であるが、今年の1-6月の売上高は4月頃に受注がひと段落したものの前年同期比10-15%増で推移している。取引先の数が増えているほか、かねて開発提案している「固形ヘアシャンプー」(弱酸性)の採用が進んだことが業績に寄与した。化粧品市場全体としては人流の回復に伴い、メイクや日焼け止めなどコロナ過で足踏みが続いていた商品に動きが始めたことは、その他商品においても好材料として捉えている。

固形ヘアシャンプーの引き合いがいぜん続いているほか、通常のヘアケア商品も堅調な受注が続いているの

②原料・資材関係の値上げは一段落したものの、電気・水道代をはじめとするユーティリティコストの高騰への対処が喫緊の課題となっている。製造効率向上

等による内部的な吸収努力にも限界があり、化粧品業界に限らず下請け企業の収益性は悪化している。今後

③設備投資については、「固形ヘアシャンプー」を含め、引き続き生産効率化の設備導入を状況に応じて検討していく。

④下半期は人流の本格的な回復が見込まれることから、年末にかけて化粧品の購買は増えるとみてい

る。「固形ヘアシャンプー」については、きめ細かなもつちり泡と滑らかな指通り、洗い流しの際、キシミの無さが特長で、プラスチックを使う必要がないため環境配慮やSDGsのコンセプトとも親和性が高い。処方バリエーションの拡充や、より早く納品するための対応を進めていくので期待して欲しい。